



株式会社 免疫生物研究所

東証グロース 証券コード：4570

2025年 3 月期 (第43期) 決算説明資料

決算報告及び事業計画

代表取締役社長 清藤 勉

2025年5月29日(木)



| Contents

- 2025年 3 月期（第43期）決算報告
- 2026年 3 月期（第44期）事業計画



2025年 3 月期（第43期） 決算報告



2025年 3 月期（第43期）決算報告

【連結業績】

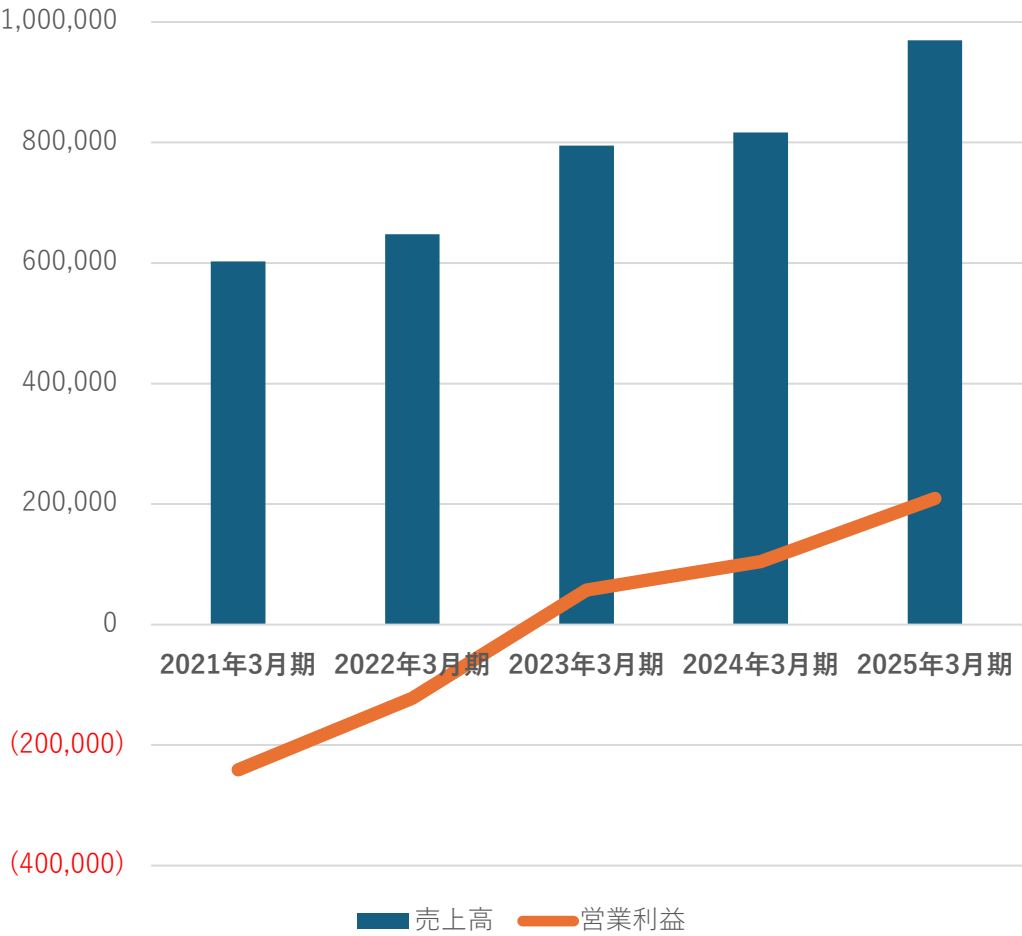
単位：千円

	2024年 3 月期 (42期)	2025年 3 月期 (43期)	前期差 (%)
売上高	816,701	969,533	+18.7
営業利益	※104,299	209,345	+100.7
経常利益	※125,413	209,861	+67.3
親会社株主に 帰属する 当期純利益	※186,694	249,047	+33.4

※（2024年5月10日公表の「固定資産の簿価切り下げ戻し（営業費用の戻し）、営業外収益及び特別損失並びに法人税等調整額の計上に関するお知らせ」及び「通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照

直近5年間の業績推移

単位：千円



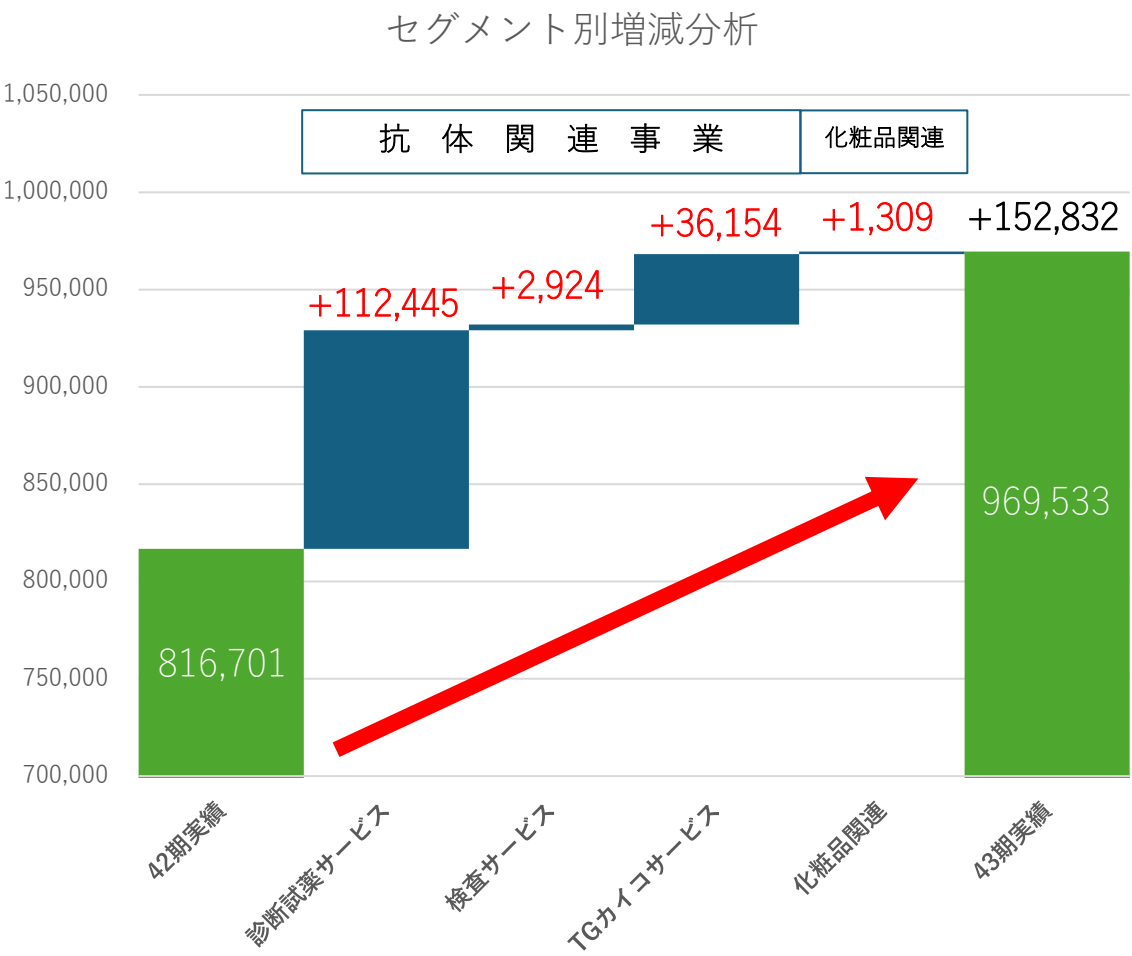


2025年 3 月期（第43期）決算報告

【報告セグメントごとの情報 売上高・営業利益】

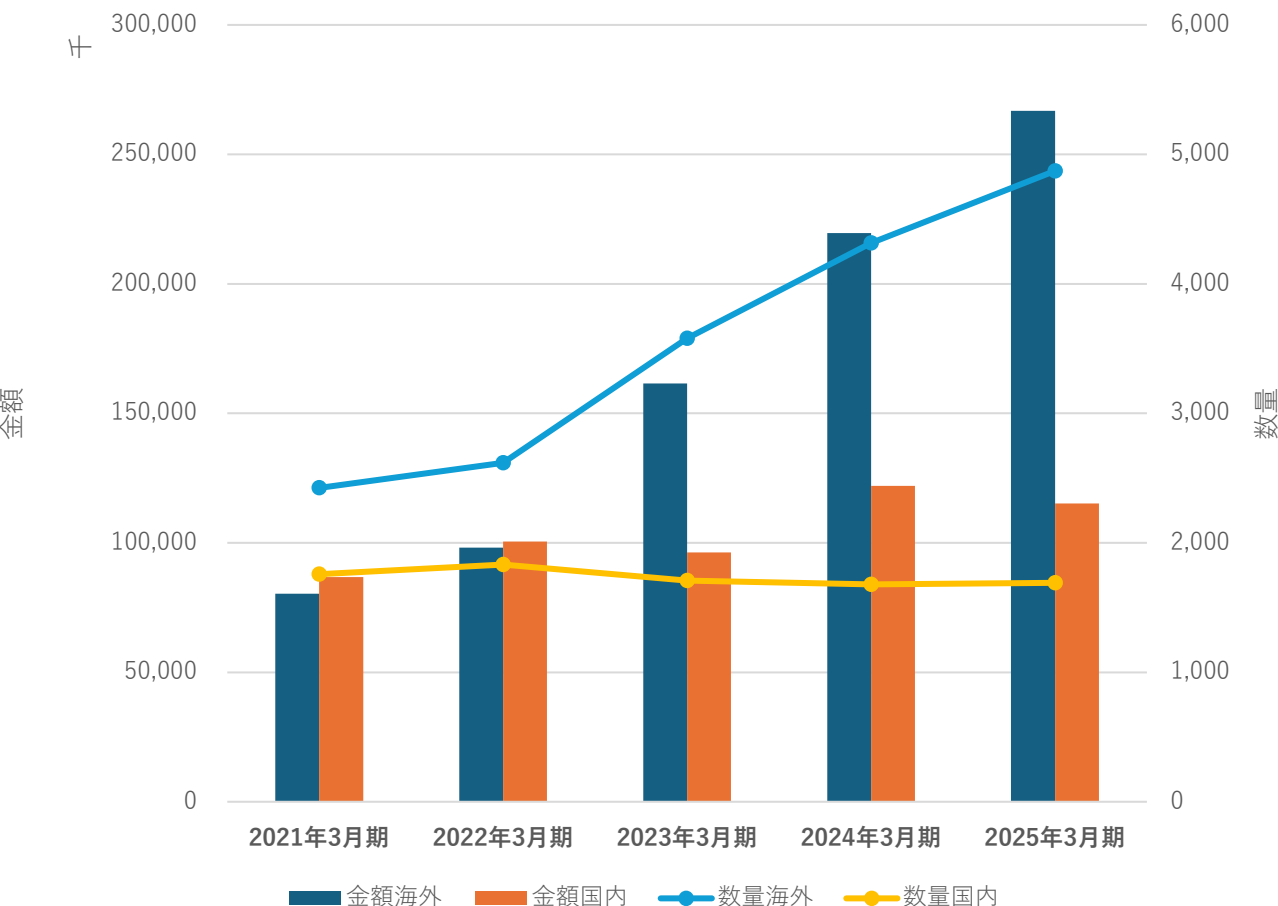
単位：千円

43期		報告セグメント		売上 構成比
		抗体 関連事業	化粧品 関連事業	
診断試薬サービス		815,339	—	84.1%
検査サービス		64,087	—	6.6%
TGカイコサービス		84,945	—	8.8%
化粧品関連		—	5,160	0.5%
売上高合計 （前年比）		964,373 (18.6%)	5,160 (34.0%)	969,533 (18.7%)
セグメント利益		208,180	1,164	209,345
セグメント利益 前年比	増減額	+100,364	+4,680	
	増減率	+93.1%	黒字化	



【売上高増減】

【EIA測定キットの販売推移】



○トピックス

【EIA】

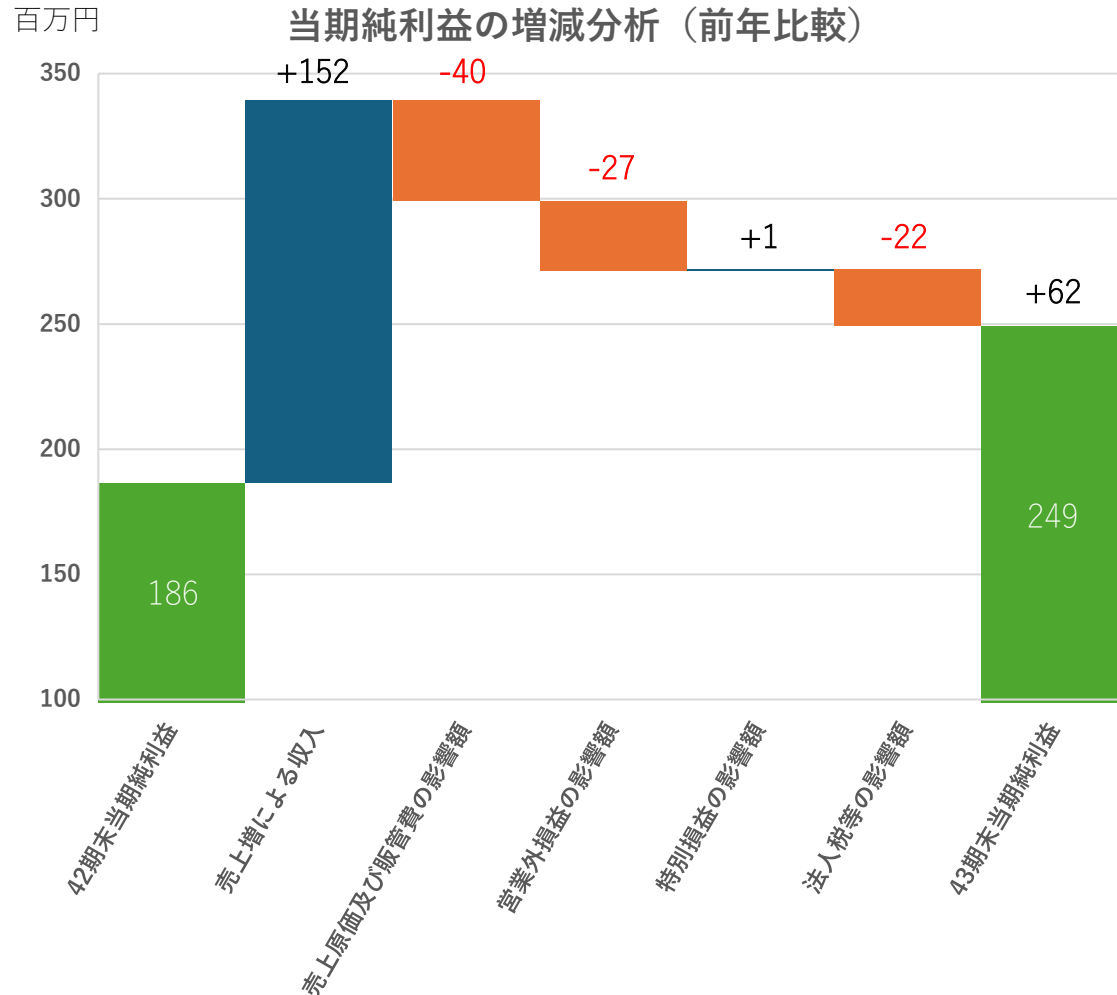
・海外

Angiotensinogen(AGT) ELISA や Gd-IgA1 ELISAが、大手CRO企業における治験に採用されていることで、継続したバルク注文が続き売上増加に貢献。売上高は**121.5%の増加**。

・国内

横ばいが続いているが、LINK-Jを活用したセミナーを開催し、製薬企業や関連企業との協業機会の創出を図る。

【当期純利益増減】



主な増減要因（前年比較）

【売上高 **+152百万円**（利益に**プラス**）】

【売上原価・販管費 **+40百万円**（利益に**マイナス**）】

- ・ 材料費の増加（売上増により）
- ・ 人件費の増加（人材確保定着やモチベーション向上）
- ・ 水道光熱費の増加（燃料費高騰により）
- ・ 減価償却費の増加（製造・開発設備への投資）

【営業外損益 **△27百万円**（利益に**マイナス**）】

- ・ 為替差損益差額 : △11百万円
- ・ 貸倒引当金戻入額（前期）差額 : △ 6百万円

【法人税等 **△22百万円**（利益に**マイナス**）】

- ・ 法人税等調整額差額 : △23百万円



2025年 3 月期（第43期）決算報告

【連結貸借対照表の概要】

単位：百万円

	2025年 3 月期		
		構成比 (%)	前期末比 (%)
流動資産	1,390	75.3	+10.2
（現預金）	(825)	44.7	+12.4
固定資産	455	24.7	+27.7
資産合計	1,845	100.0	+14.0
流動負債	281	15.2	+9.1
固定負債	49	2.7	△47.9
（長短借入金）	(204)	(11.1)	(△13.5)
負債合計	331	17.9	△6.3
純資産合計	1,514	82.1	+19.7
負債純資産合計	1,845	100.0	+14.0

【主要な資産の前期末差】

- ・ 売上債権 41,227千円の増加
- ・ 現金及び預金 91,594千円の増加
- ・ 有形固定資産 55,331千円の増加
- ・ 繰延税金資産 44,430千円の増加

【主要な負債の前期末差】

- ・ 1年内借入金 17,715千円の増加
- ・ 長期借入金 49,470千円の減少

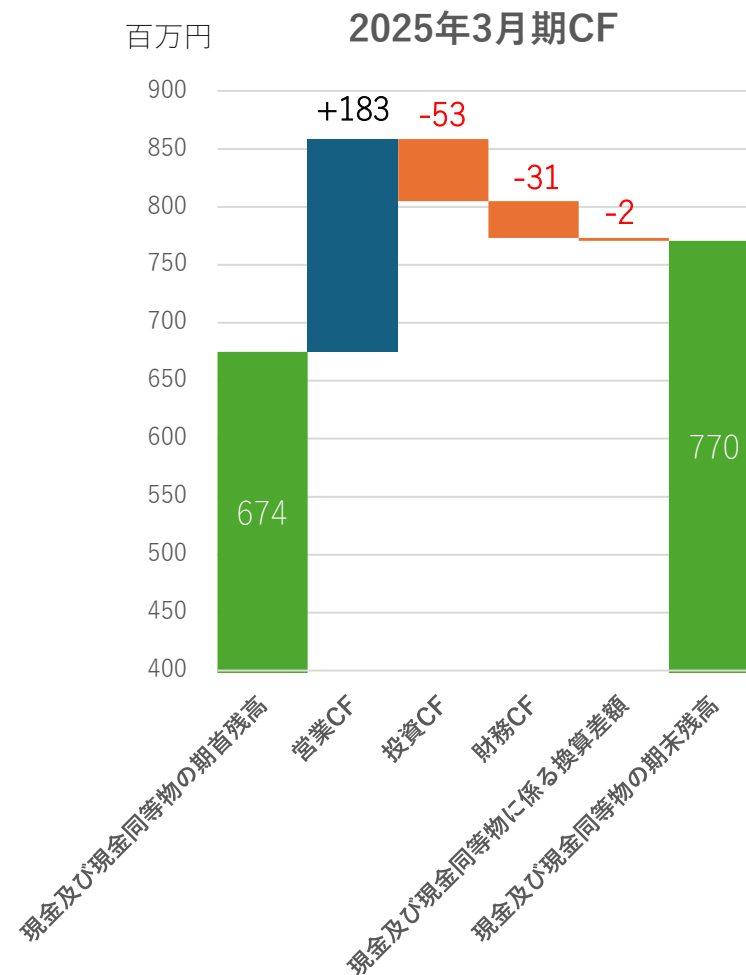
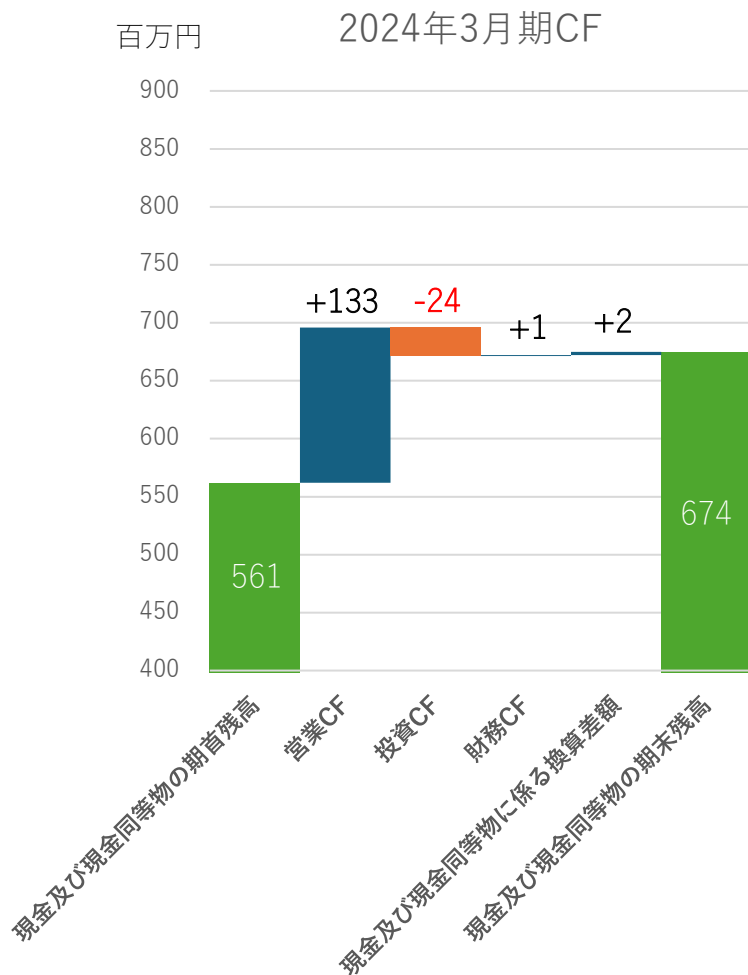
【主要な純資産の前期末差】

- ・ 利益剰余金 249,047千円の増加



2025年3月期（第43期）決算報告

【連結キャッシュ・フロー：現金及び現金同等物の期末残高 770,563千円（95,593千円増加）】



単位：千円

【主要な営業活動による
キャッシュ・フローの前年同期差】

- ・税金等調整前当期純利益 +209,861
- ・減価償却費 + 15,427
- ・売上債権の回収 △ 41,227

【主要な投資活動による
キャッシュ・フローの前年同期差】

- ・有形固定資産の取得による支出 △59,660

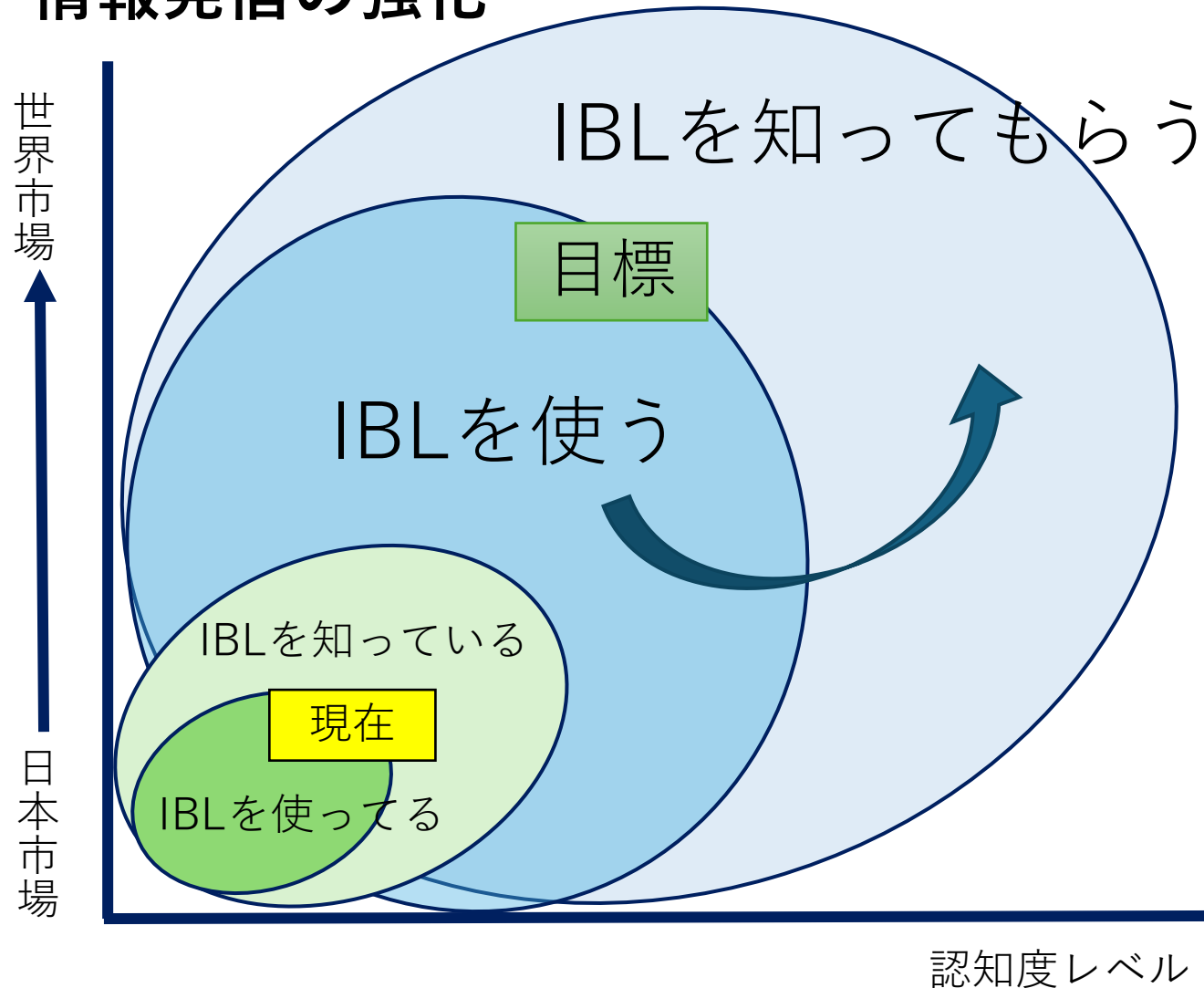
【主要な財務活動による
キャッシュ・フローの前年同期差】

- ・長期借入金の借入による収入 +20,000
- ・長期借入金の返済による支出 △52,003



2026年 3 月期（第44期） 事業計画

情報発信の強化



当社グループの独自技術を日本市場から世界市場へ展開
海外においてはLinkedInを活用し、世界のビジネスユースへ当社グループの独自技術を配信することにより、世界の研究者の記憶に刷り込み、当社グループ製品及びサービス群の利用機会を拡大させる。
国内においてはLINK-Jを活用したセミナーを開催することにより、製薬企業や関連企業に情報発信を行い、協業機会の創出を図る。



海外

LinkedIn：世界200以上の国と地域に10億人を超える登録メンバーが、仕事やキャリアに関する情報を交換しているSNS

情報発信

- ・論文紹介
- ・学会参加 etc.



国内

LINK-J：ライフサイエンス領域での「オープンイノベーションの促進」と「エコシステムの構築」を目的とする、人と情報の交流プラットフォーム

セミナー開催

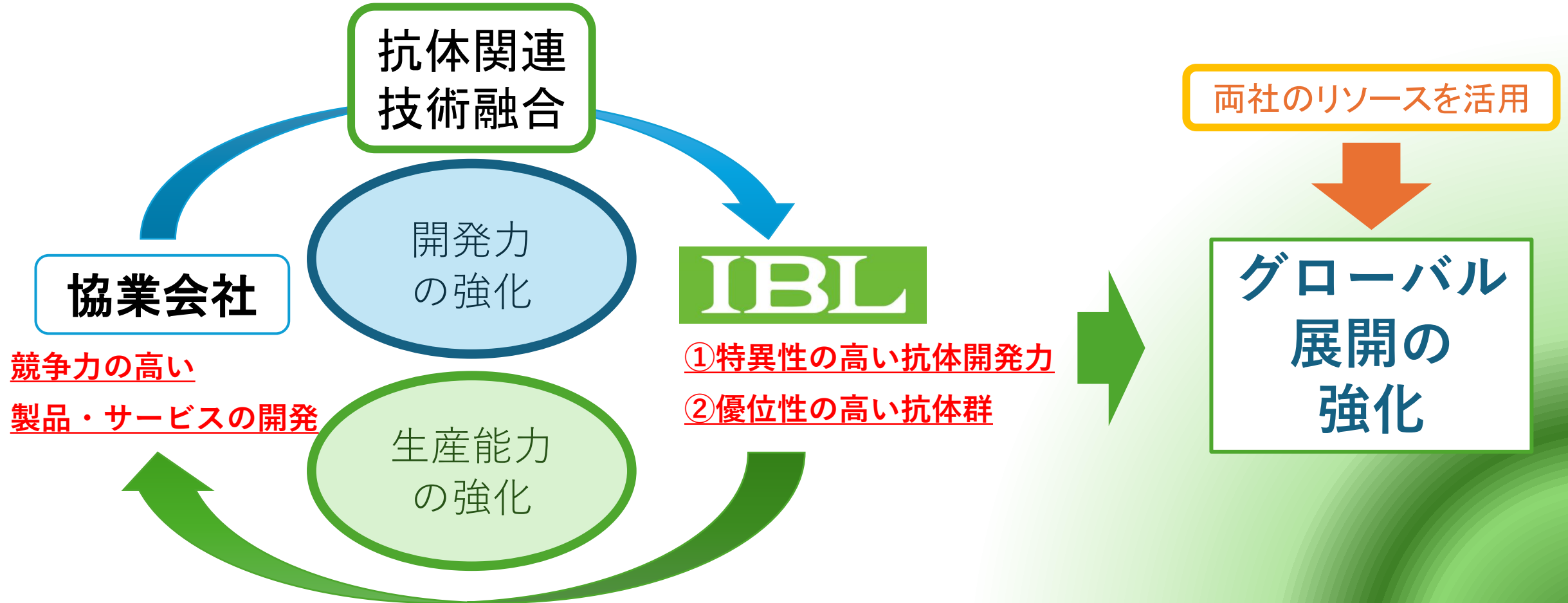
- ・Titin
- ・Klotho etc.



ネットワークを構築・機会の創出

グローバル展開の構想

国内外協業企業とのコラボレーション





抗体関連事業：体外診断用医薬品（原料含む）

開発中の主なテーマと進捗状況

標的分子	グルカゴン	Titin-N7ラグメント	赤痢アメーバ	CTP(Cochlin-Tomo-Protein) イムノクロマト法
上市予定	2025年3月期	2026年3月期	2026年3月期	未定
対象疾患	血糖調節因子	神経筋疾患	赤痢アメーバ症	外リンパ瘻
申請区分	既存（クラスⅠ）	新規（クラスⅢ）	既存(クラスⅢ)	新規（クラスⅢ）
共同研究先	群馬大学	神戸大学 昭和大学	海外企業	埼玉医科大学
前回 進捗	最終準備段階 2025年3月期 第1四半期に販売承認申請予定	神経筋疾患診断薬をめざし 認定試薬として販売を開始	体外診断用医薬品 製造販売承認取得 保険適用に向けて準備中	研究開発中 イムノクロマト法
今回 進捗	株式会社コスミック・コーポ レーションが製造販売元、当社 が製造元となり、体外診断用医 薬品の製造販売の届出を行い、 受理 2025年3月期上市済	神経筋疾患診断薬をめざし 認定試薬として販売を開始 研究開発中	保険適用希望書提出中	継続中
IBLの役割	試薬開発 医薬品申請	試薬開発 医薬品申請	医薬品申請	・試薬開発 ・受託製造

シスメックス（株）及び海外診断薬メーカーとの共同開発
⇒数品目の診断薬原料候補の抗体やタンパク質の共同開発を行っております。



2026年 3 月期（第44期）事業計画

【連結業績予想】

単位：百万円

	2025年 3 月期 (第43期)	2026年 3 月期 (第44期)	対前期 増減
売上高	969	1,025	+56
抗体関連事業	964	1,015	+51
化粧品関連事業	5	10	+5
営業利益	209	240	+31
抗体関連事業	208	238	+30
化粧品関連事業	1	2	+1
経常利益	209	240	+31
親会社株主に帰属する 当期純利益	249	265	+16



利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社グループの配当方針につきましては、株主に対する安定した利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、過去の連結業績の推移、今後の連結業績の見通し、配当性向・配当利回り・自己資本比率等の指標などを総合的に勘案して配当を決定することを基本方針といたします。

その結果、当期の剰余金の配当につきましては、過去の連結業績の推移や内部留保の水準等を勘案いたしまして、無配とさせていただきます。

なお、次期の一株当たり配当金につきましては、年間 6 円（連結配当性向21.1%程度）を予定しております。

今後につきましても企業価値の向上とともに株主様への配当還元向上を目指してまいります。



本資料の取扱いについて



注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。

実際の成果は様々な要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品申請の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。